

食品安全情報（微生物） No.16 / 2026（2026.08.05）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. アイスバーグレタスに関連して複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイク（2026年7月24日、18日、17日付更新情報、14日付初発情報）
2. 殻付き卵に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Enteritidis）感染アウトブレイク（2026年7月24日付初発情報）
3. 小規模飼育の家禽類に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）感染アウトブレイク（2026年7月27日、23日付更新情報）

【[欧州疾病予防管理センター（ECDC）](#)】

1. 欧州の複数国にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Stanley シークエンスタイプ（ST）2045）感染アウトブレイク

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

【[オーストラリア・ニュージーランド食品基準局（FSANZ）](#)】

1. オーストラリア・ニュージーランド食品基準局（FSANZ）による年次報告書（2024年7月～2025年6月）

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<https://www.cdc.gov/>

1. アイスバーグレタスに関連して複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイク (2026 年 7 月 24 日、18 日、17 日付更新情報、14 日付初発情報)

July 24, 18, 17 & 14, 2026

Cyclospora Outbreak Linked to Iceberg Lettuce in 9 States

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/investigation.html> (Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、アイスバーグレタスに関連して複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイクに関する情報を発表した。

2026 年 7 月 24 日付更新情報

疫学・追跡調査によるデータは、依然として Taylor Farms de Mexico 社のアイスバーグレタスがサイクロスポラに汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示している。

○ 疫学データ

2026 年 7 月 18 日付更新情報以降、本アウトブレイクに関連したサイクロスポラ症確定患者が新たに報告され、本アウトブレイクに関連する患者数は計 1,947 人となった。これに伴い、新たに 4 州 (イリノイ、カンザス、オクラホマおよびペンシルベニア) が追加された。

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 2 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。9 州から計 1,947 人のサイクロスポラ感染患者が Taco Bell で曝露したことが報告されている (図 1)。本アウトブレイクに関連した患者の発症日は 2026 年 6 月 22 日～7 月 20 日である (図 2)。これらの患者のうち少なくとも 98 人が入院し、死亡者は報告されていない。留意すべき点としては、この患者数には発症前 2 週間に本アウトブレイクに関連する州へ旅行し Taco Bell で喫食した患者も含まれている。

図 1：サイクロスポラ感染アウトブレイクの居住州別患者数（2026 年 7 月 24 日時点の計 1,947 人）

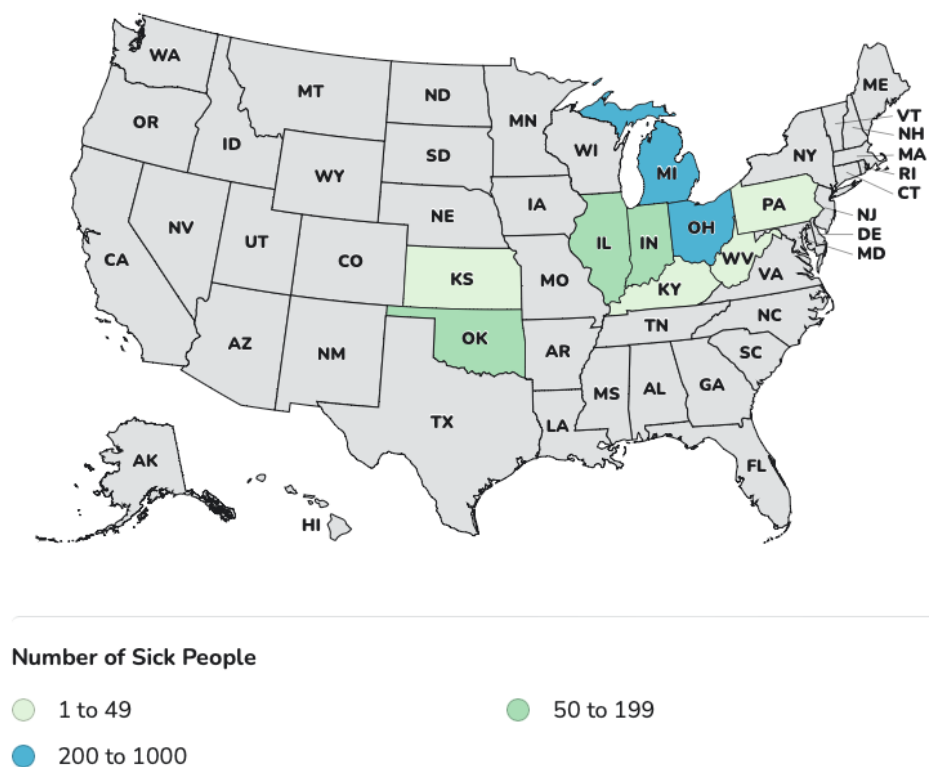
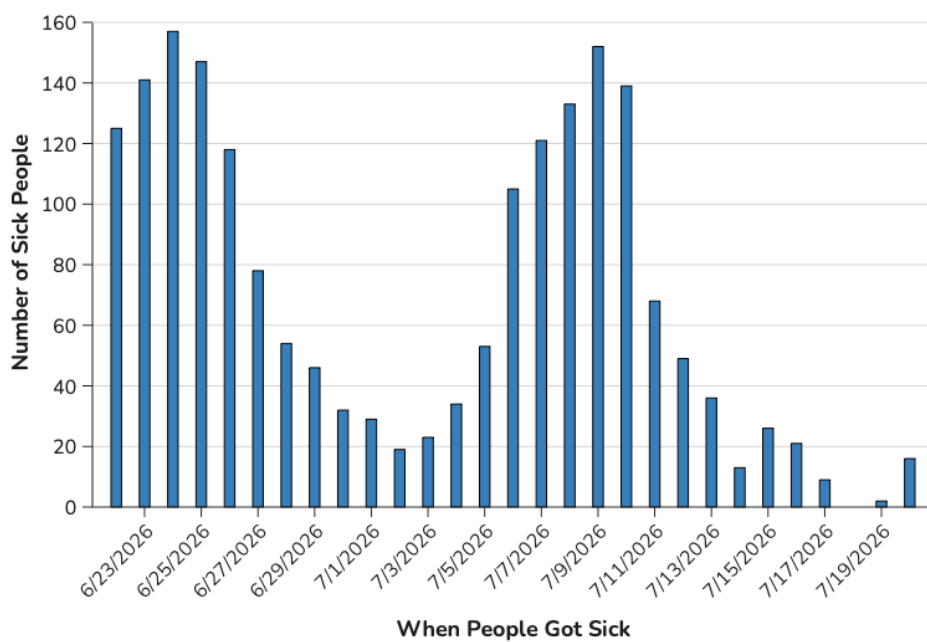


図 2：サイクロスポラ感染アウトブレイクの発症日別患者数（2026 年 7 月 24 日時点の計 1,947 人）



2026 年 7 月 18 日付更新情報

2026 年 7 月 17 日、Taylor Farms de Mexico 社はメキシコ中央部で生産されたすべてのアイスバーグレタスの回収を開始した。

CDC、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイクを調査するため、引き続き様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査によるデータは、Taylor Farms de Mexico 社のアイスバーグレタスがサイクロスポラに汚染され、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 公衆衛生上の措置

2026 年 7 月 17 日、Taylor Farms de Mexico 社はメキシコ中央部で生産されたすべてのアイスバーグレタスの回収を開始した。Taylor Fresh Foods 社による回収通知には、Walmart で入手可能な Marketside ブランドの製品が含まれている（以下 Web ページ参照）。

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/investigation-5-state-outbreak-cyclospora-illnesses-iceberg-lettuce-july-2026>

- ・ 複数ロットが回収対象となっている。
- ・ 製品は様々な種類の包装で販売されている。
- ・ 回収対象のレタスは複数州に向けて出荷され、複数の消費者、飲食店および小売業者に販売された。

2026 年 7 月 17 日付更新情報

米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、5 州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

患者が報告された 5 州（インディアナ、ケンタッキー、ミシガン、オハイオおよびウエストバージニア）では、Taco Bell レストランで Taylor Farms de Mexico 社の細切りアイスバーグレタスを喫食すべきでない。

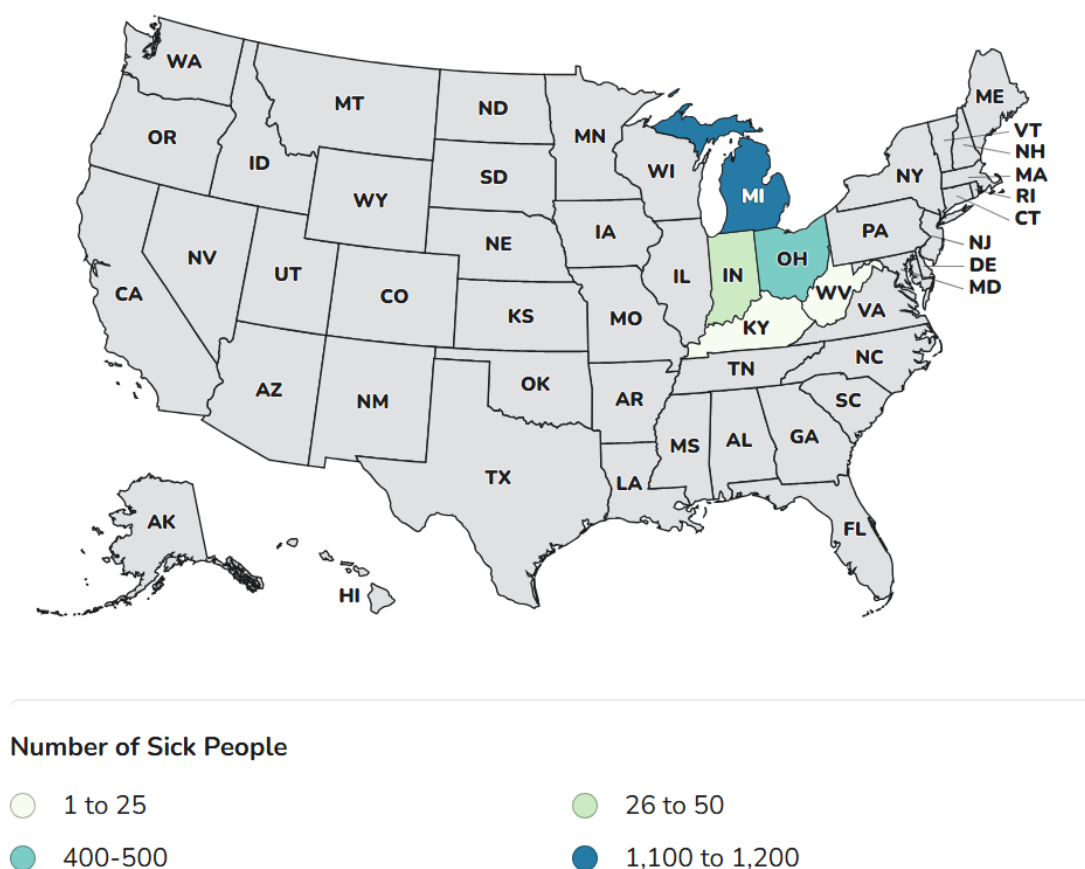
CDC はまた、全米規模で、本アウトブレイクとは関連しないその他のサイクロスポラ症アウトブレイクおよびその患者についても調査を進めている。

疫学および追跡調査によるデータは、一部の Taco Bell 店舗で提供された Taylor Farms de Mexico 社の細切りアイスバーグレタスがサイクロスポラに汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示している。FDA は、この細切りアイスバーグレタスが他の場所へも配送されたかどうか確認するため調査を行っている。

○ 疫学データ

CDC が収集した疫学情報によると、Taco Bell での曝露を申告したサイクロスポラ感染患者が 5 州から計 1,644 人報告されている。患者の発症日は 2026 年 5 月 13 日～7 月 13 日である。患者 94 人が入院し、死亡者は報告されていない。

図：サイクロスポラ感染アウトブレイクの居住州別患者数（2026 年 7 月 17 日時点の計 1,644 人）



ミシガン州保健福祉局（MDHHS）は、Taco Bell での喫食を報告した患者 190 人について食品曝露の詳細を解析し、結果を CDC と共有した。患者が喫食した食品について材料レベルで解析を行った結果、聞き取りを行った患者の 90%がアイスバーグレタスの喫食を報告した。

各州の当局が Web ページで公表する患者数には疑い患者が含まれているため、CDC および FDA が公表する患者数とは異なっている可能性がある。CDC および FDA は検査機関で確定された患者数のみを報告している。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

FDA の追跡調査により、患者が発症前に喫食した細切りアイスバーグレタスを Taco Bell 店舗へ供給していた単一の供給業者として Taylor Farms de Mexico 社が特定された。患者が報告された州のすべての Taco Bell 店舗がこの供給業者からアイスバーグレタスを供給されていたわけではなかった。Taco Bell 社は本調査で関連が示唆されたすべてのレタスについて使用を中止する予定であり、Taylor Farms 社はメキシコ中央部から米国市場へ供給されたすべてのアイスバーグレタスを撤去している（以下 Web ページ参照）。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/taylor-fresh-foods-recalls-iceberg-lettuce-central-mexico-because-possible-health-risk>

FDA および関連各州の当局は、当該製品から検体を採取し検査・分析を行っている。FDA はまた、本アウトブレイク関連製品について、国境でのスクリーニング検査を強化した。

○ 公衆衛生上の措置

2026 年 7 月 17 日、Taylor Farms de Mexico 社はメキシコ中央部から米国市場へ供給されたすべてのアイスバーグレタスを市場から撤去することを発表した。

CDC は 5 州（インディアナ、ケンタッキー、ミシガン、オハイオおよびウエストバージニア）の Taco Bell 店舗で提供された Taylor Farms de Mexico 社の細切りアイスバーグレタスを喫食しないよう注意喚起している。

2026 年 7 月 14 日付初発情報

米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、複数州にわたり発生しているサイクロスポラ症アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

○ 疫学データ

2026 年 7 月 13 日時点で、複数州にわたり発生しているサイクロスポラ症アウトブレイク患者が 4 州から計 400 人以上 CDC に報告され、報告州はミシガン、オハイオ、ウエストバージニアおよびケンタッキーの各州であった。CDC は調査中の患者がさらに複数存在することを認識している。患者の発症日は 2026 年 6 月 22 日以降である。

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

（食品安全情報（微生物）No.15 / 2026（2026.07.22）US CDC 記事参照）

2. 殻付き卵に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis) 感染アウトブレイク (2026 年 7 月 24 日付初発情報)

Salmonella Outbreak Linked to Shell Eggs

July 24, 2026

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/shell-eggs-07-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/shell-eggs-07-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/shell-eggs-07-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/shell-eggs-07-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis) 感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、Midwest Poultry Services 社が生産および出荷した殻付き卵が *S. Enteritidis* に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっている可能性があることを示している。

○ 疫学データ

● 報告患者

2026 年 7 月 24 日時点で、*S. Enteritidis* アウトブレイク株感染患者が 17 州から計 98 人報告されている (図 1)。患者の発症日は 2025 年 11 月 21 日～2026 年 6 月 30 日である (図 2)。情報が得られた患者 72 人のうち 26 人 (36%) が入院した。死亡者は報告されていない。

図 1：サルモネラ (*Salmonella Enteritidis*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2026 年 7 月 24 日時点の計 98 人)

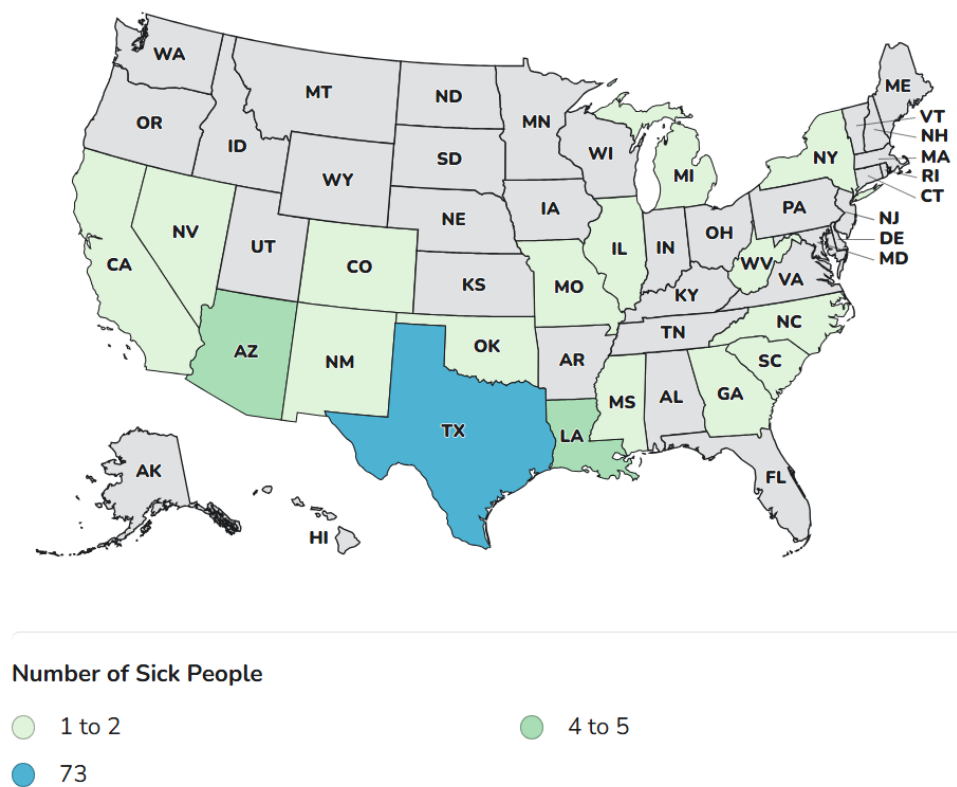
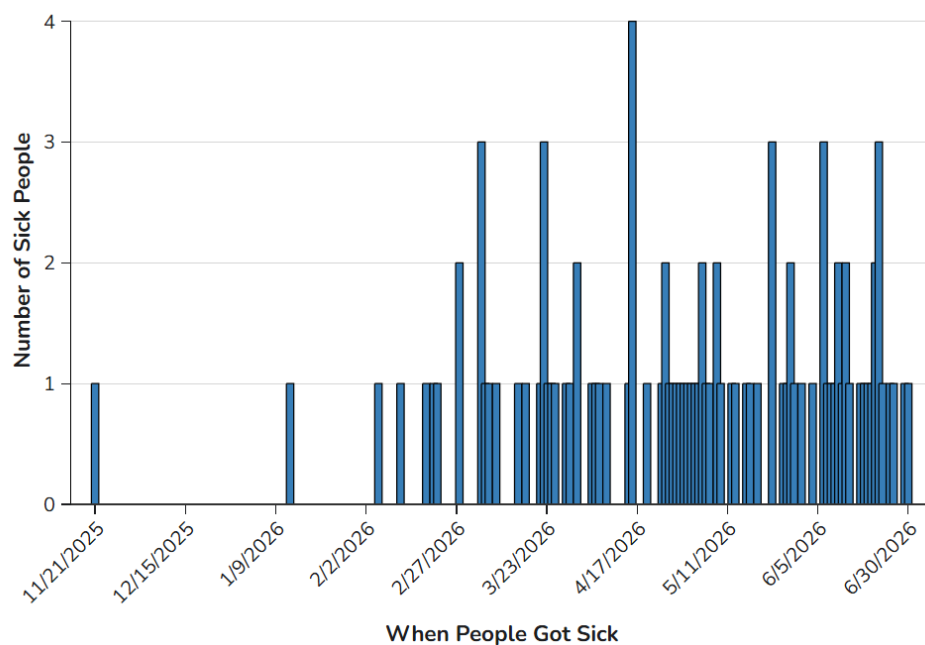


図 2：サルモネラ (*Salmonella Enteritidis*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026 年 7 月 24 日時点の計 98 人)



● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢（n=98）	年齢範囲：1 歳未満～81 歳 年齢中央値：48 歳
性別（n=96）	54%：女性 46%：男性
人種（n=82）	84%：白人 12%：アフリカ系アメリカ人または黒人 4%：アジア系
民族（n=80）	65%：非ヒスパニック系 35%：ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 44 人のうち 40 人（91%）が殻付き卵の喫食を報告した。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング（WGS）法により DNA フィンガープリンティングが行われる。

WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

WGS 解析の結果、患者由来 98 検体から分離されたサルモネラ株についてシプロフロキサシンへの非感受性（NSC）およびナリジクス酸への耐性が予測された。この患者由来株は、鶏肉・卵・小規模飼育の家禽から分類された *S. Enteritidis* 株（FDA の以下 Web ページ参照）に関連している。

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/national-antimicrobial-resistance-monitoring-system/narms-interim-data-updates#682e242c00467>

サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。しかし、抗生物質が必要になった場合、本アウトブレイクの一部の患者については、一般的に推奨される抗生物質による治療が困難になる場合があり、別の抗生物質の選択が必要になる可能性がある。抗生物質耐性に関する詳細情報は、以下の CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/about/index.html>

この調査の一環として、FDA は卵を調査対象期間内に購入・喫食したと患者が報告した場所にもとづいて追跡調査を実施し、卵の共通の供給元の 1 つとして Midwest Poultry Services 社を特定した。他の感染源の有無を確認するため調査が進められている。

また、Midwest Poultry Services 社はテキサス州の複数の農場からも検体を採取した。同社が採取した検体からサルモネラが分離され、第三者検査機関が実施した WGS 解析の結果、これらの分離株は本アウトブレイクの原因株と一致した。

○ 公衆衛生上の措置

2026 年 7 月 22 日、Midwest Poultry Services 社はサルモネラ汚染の可能性があるとして 150 万ダース（1,800 万個）以上の殻付き卵の回収を開始した。CDC は、回収対象の卵（以下 Web ページ参照）を喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/midwest-poultry-services-lp-recalls-shell-eggs-due-possible-salmonella-enteritidis-contamination>

3. 小規模飼育の家禽類に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*) 感染アウトブレイク (2026 年 7 月 27 日、23 日付更新情報)

Salmonella Outbreaks Linked to Backyard Poultry

July 27, 2026

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、小規模飼育の家禽類に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*) 感染アウトブレイクに関する更新情報を発表した。

2026 年 7 月 27 日付更新情報

米国疾病予防管理センター（US CDC）および複数州の公衆衛生当局は、複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、本アウトブレイクの患者が小規模飼育の家禽類との接触により感染したことを示している。

○ 疫学データ

● 報告患者

2026 年 6 月 17 日付更新情報以降に、新たに報告患者計 301 人、および原因血清型として *S. Kedougou* が調査対象に追加された。2026 年 7 月 27 日時点で、サルモネラ（*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）アウトブレイク株のいずれかに感染した患者が 44 州および 1 準州から計 814 人報告されている（図 1）。患者の発症日は 2026 年 1 月 20 日～7 月 12 日である（図 2）。情報が得られた患者 594 人のうち 201 人（34%）が入院した。ワシントン州から死亡者 1 人が報告されている。

図 1：サルモネラ（*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）感染アウトブレイクの居住州別患者数（2026 年 7 月 27 日時点の計 814 人）

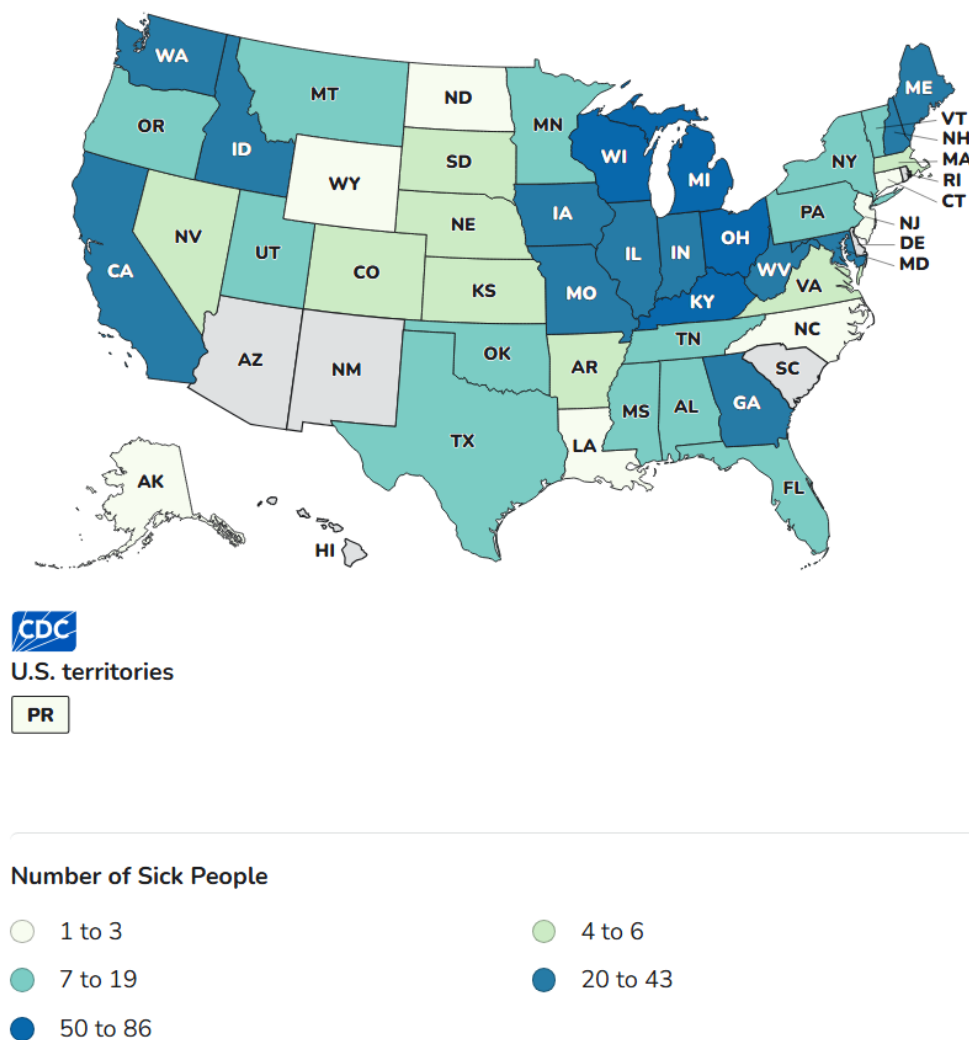
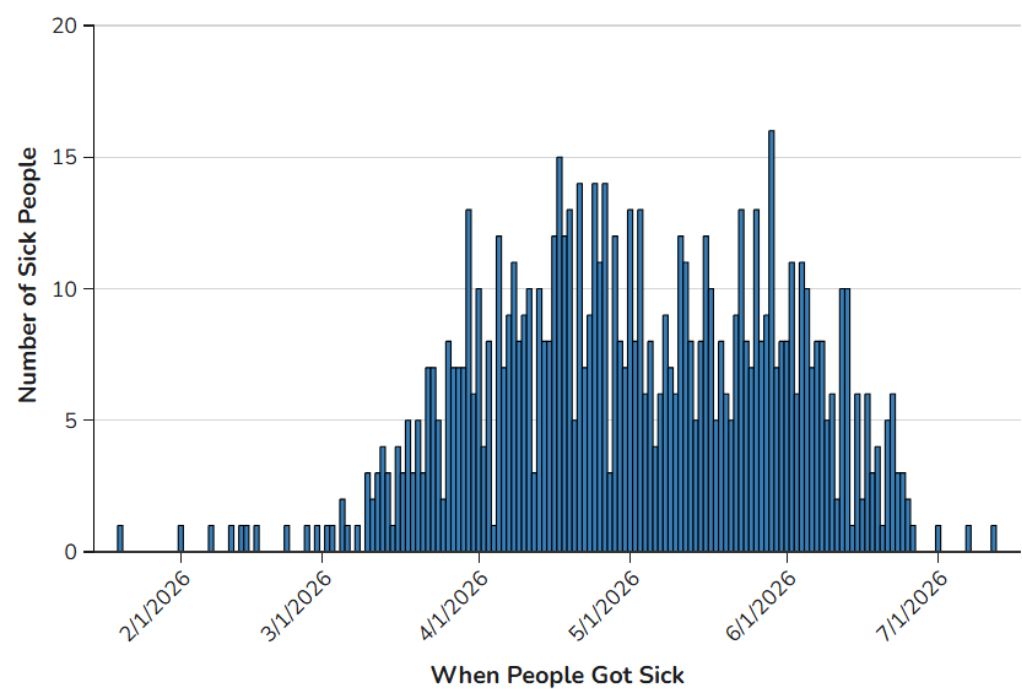


図 2：サルモネラ（*Salmonella* Enteritidis、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）感染アウトブレイクの発症日別患者数（2026 年 7 月 27 日時点の計 814 人）



● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に接触した動物など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢（n=812）	年齢範囲：1 歳未満～99 歳 年齢中央値：34 歳 5 歳未満：24%
性別（n=811）	56%：女性 44%：男性
人種（n=572）	94%：白人 1%：アジア系 1%：黒人 1%：アメリカ先住民またはアラスカ先住民 1%：ハワイ先住民またはその他の太平洋諸島の住民 2%：複数の人種

民族 (n=573)	88% : 非ヒスパニック系 12% : ヒスパニック系
------------	---------------------------------

● 動物との接触に関する調査

各州・地域の公衆衛生当局は、本アウトブレイクの患者が発症前 1 週間に接触した動物に関する聞き取り調査を行っている。

- ・ 聞き取りが実施された患者 585 人のうち、459 人（78%）が小規模飼育の家禽類との接触を報告した。
- ・ *S. Saintpaul* 以外の血清型によるアウトブレイク患者のほとんどがニワトリの雛および成鶏との接触を報告していたのに対し、*S. Saintpaul* によるアウトブレイク患者はアヒル（特にペキン種のアヒル）の雛および成鳥との接触をより多く報告していた。
 - ー 接触した家禽の種類を報告した *S. Saintpaul* 感染患者 210 人のうち、174 人（83%）がニワトリの雛または成鶏との接触を報告し、100 人（48%）がアヒルの雛または成鳥との接触を報告した。
 - ー アヒルの種類に関する情報が得られた患者 42 人のうち、30 人（71%）がペキン種のアヒルを報告した。

○ 追跡調査によるデータ

家禽類の小規模飼育を行っていることを報告した患者 280 人のうち 235 人（84%）が、2026 年 1 月 1 日以降に家禽類を購入または入手していた。これらの患者は家禽類を様々な場所で入手したが、多くの患者は農業用品店で購入したと報告した。調査では、患者が家禽類を入手した場所、および患者が家禽類を購入した小売店に家禽類を供給した孵化場について、情報の収集が続けられている。

上記 6 種類のサルモネラアウトブレイク株は 7 カ所の孵化場に関連している。CDC は関連各州の当局と協力してこれらの孵化場にこの結果を通知し、孵化場への供給業者が関連した可能性についても調査を進めている。調査は継続しているため、本アウトブレイクに関連した別の孵化場が新たに特定される可能性がある。

○ 検査機関での検査データ

アイダホ、ミシガン、ミネソタ、オハイオおよびテネシーの各州で実施された調査において、小規模飼育の家禽類由来検体、および孵化場から小売店への家禽類の出荷時に使用された輸送箱内部由来検体（中敷き、敷き藁など）が採取された。全ゲノムシーケンシング（WGS）解析が行われた結果、これらの検体から検出された *S. Enteritidis*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul* 株が患者由来検体から分離された株と同一であることが示された。

● 薬剤耐性

患者由来 813 検体、家禽由来 12 検体および環境由来 34 検体から分離されたサルモネラ株に関する WGS 解析の結果、本アウトブレイクに関連したサルモネラ株の一部が、重度のサルモネラ症患者の治療で一般的に推奨される一部の抗生物質（アンピシリン、セフトリアキソン、シプロフロキサシンなど）に対し耐性／非感受性であることが予測された。一般的に、遺伝学的に近縁なサルモネラ株は、類似の薬剤耐性を示す傾向がみられる。

サルモネラ症患者の多くは抗生物質を使用せずに回復する。しかし、抗生物質が必要になった場合、本アウトブレイクの患者については推奨される抗生物質による治療が困難になる場合があり、別の抗生物質の選択が必要になることがある。可能であれば、医療従事者は治療方針を決定するために抗生物質感受性試験（AST）を実施すべきである。薬剤耐性菌感染患者およびサルモネラ症の合併症の患者に関しては、感染症専門医に相談することを検討すべきである。

一部の検体からのサルモネラ分離株はホスホマイシンへの耐性を示した。ホスホマイシンはサルモネラが原因となる下痢症の治療において一般的に推奨される抗生物質ではないが、尿路感染症の治療に使用される可能性がある。ホスホマイシン耐性株感染患者の約 11% が尿路感染症を発症していた。この耐性により、少数の尿路感染症に罹患した患者において治療の選択肢が限定される可能性がある。

● 耐性に関する詳細

WGS 解析の結果、本アウトブレイクに関連したサルモネラ株については以下の抗生物質耐性の存在が予測された：ホスホマイシン（489 検体）、テトラサイクリン（109）、ナリジクス酸（102）、ストレプトマイシン（32）、ゲンタマイシン（25）、スルフイソキサゾール（15）、クロラムフェニコール（7）、アンピシリン（3）、アモキシシリン／クラブラン酸（1）、セフトリアキソン（1）、セフォキシチン（1）およびセフトロフル（1）。

103 検体由来分離株はシプロフロキサシンへの非感受性が予測された。251 検体由来分離株については抗生物質耐性の存在が予測されなかった。

2026 年 7 月 23 日付更新情報

○ 公衆衛生上の措置

米国疾病予防管理センター（US CDC）は、小規模飼育の家禽類を取り扱う際に健康被害を防ぐための衛生手順（以下 Web ページ参照）を遵守するよう注意喚起を行っている。

https://www.cdc.gov/healthy-pets/about/backyard-poultry.html?CDC_AAref_Val=https://www.cdc.gov/healthypets/pets/farm-animals/backyard-poultry.html#cdc_generic_section_3-how-to-stay-healthy-around-backyard-poultry

CDC および関連各州の当局は、家禽類を販売する孵化場や小売店と協力し、家禽類を初め

て所有する人への啓発および孵化場でのサルモネラ伝播防止に取り組んでいる。

(食品安全情報(微生物) No.14 / 2026 (2026.07.08)、No.11 / 2026 (2026.05.27)、No.9 / 2026 (2026.04.28) US CDC 記事参照)

● 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/en>

欧州の複数国にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Stanley シークエンスタイプ (ST) 2045) 感染アウトブレイク

Multi-country cluster of *Salmonella* Stanley ST2045

Communicable disease threats report, 30 May - 5 June 2026, Week 23

5 June 2026

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/Communicable-disease-threats-report-week-23-2026.pdf> (感染症週報 PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/communicable-disease-threats-report-30-may-5-june-2026-week-23>

欧州疾病予防管理センター (ECDC) は、「感染症週報 2026 年 5 月 30 日～6 月 5 日 (第 23 疫学週) 号 (Communicable disease threats report, 30 May - 5 June 2026, Week 23)」を発行した。以下に欧州の複数国にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Stanley シークエンスタイプ (ST) 2045) 感染患者クラスターに関する項目を紹介する。

調査の概要

「感染症週報 2026 年 5 月 2～8 日 (第 19 疫学週) 号」(以下 Web ページ参照) で報告された、欧州複数国にわたる *S. Stanley* ST2045 感染アウトブレイクは 2026 年 6 月 5 日時点で継続中である。本アウトブレイクにおけるサルモネラ感染患者は小児および若年成人が大多数を占め、患者のうち少なくとも 20 人が入院し、公衆衛生上の重大な影響が示されている。

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/communicable-disease-threats-report-2-8-may-2026-week-19>

2026 年 6 月 5 日までに確定患者 83 人が報告されており、発症日は 2025 年 12 月～2026

年 5 月中旬である。さらに、2026 年に確認された *S. Stanley* 感染患者 24 人から分離された株については、まだ遺伝子解析が行われておらず、本アウトブレイクに関連している可能性がある。依然として新たな患者が確認されていることから、曝露が継続していることが示唆される。

デンマークが本アウトブレイクを最初に検知し、2026 年 3 月 23 日に EpiPulse（欧州感染症サーベイランスポータルサイト）に報告した。患者分離株は遺伝学的に極めて近縁なクラスターを形成しており、オーストリア、チェコ、デンマーク、エストニア、フランス、ドイツ、リトアニア、オランダおよび英国で確認されている。

疫学調査の結果、鶏肉風味のインスタント麺および鶏肉加工製品との関連が示唆された。一部の患者はインスタント麺を調理せず（非加熱の状態で、麺に付属の調味料をかけて）喫食したと報告した。

2026 年 6 月 5 日時点で、ECDC の分子タイピングツール（MTT）では、19 株の患者由来 *S. Stanley* 分離株がクラスター解析されている。これら 19 株はすべて 2026 年に分離されたものであり、EpiPulse に患者を報告した欧州 3 カ国に由来する。

ECDC によるリスク評価

欧州の複数国にわたり発生している本アウトブレイクは、遺伝学的に極めて近縁な *S. Stanley* ST2045 のクラスターの特定および患者発生の時間的分布を考慮すると、共通の感染源によるものであることが示唆される。患者の大多数が若年層であることから、食品の好みまたは喫食習慣など特定の曝露パターンが存在する可能性がある。数人の患者は同一ブランドのインスタント麺の喫食を報告したが、すべての患者をこの曝露で説明することはできない。調査は継続中であるため、さらに患者が報告される可能性がある。2026 年 6 月 5 日時点で判明している限りでは、調理法の指示に従っている場合、*S. Stanley* 感染症のリスクは小児および若年成人では「低い (low)」と考えられ、それ以外の年齢層では「非常に低い (very low)」と評価されている。

対策

インスタント麺は「そのまま喫食可能な (RTE : ready-to-eat)」食品ではないため、消費者はインスタント麺およびそれに付属のミックススパイスを調理・喫食する際は製造者の指示に従うべきである。

感染源を特定し、さらなる感染拡大を防止するためには、連携の取れた継続的な調査が不可欠である。ECDC および欧州食品安全機関（EFSA）は合同迅速アウトブレイク評価を実施して本アウトブレイクの感染源の調査を進める予定である（下の関連記事参照）。

加盟各国は EpiPulse において疫学情報および微生物学的情報を共有し、分離株の遺伝子配列データを ECDC へ報告することが推奨される。

ECDC は EpiPulse を通じて本アウトブレイクをモニタリングし、また患者が発生した各

国および EFSA と緊密に連携している。

(関連記事)

欧州疾病予防管理センター (ECDC)

ECDC-EFSA 合同迅速アウトブレイク評価：味付き麺製品に関連して欧州複数国にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Stanley ST2045) 感染アウトブレイク

JOINT ECDC-EFSA RAPID OUTBREAK ASSESSMENT: Multi-country outbreak of *Salmonella* Stanley ST2045 infections linked to consumption of flavoured noodle products

1 July 2026

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/ROA-Salmonella-Stanley.pdf>

(報告書 PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/multi-country-outbreak-salmonella-stanley-st2045-infections-linked-consumption>

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2026 年 7 月 15～28 日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

フランス産の生乳チーズの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産の生ソーセージのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体 2/5 陽性)、リトアニア産冷燻サラミの志賀毒素産生性大腸菌 (*stx2*)、リトアニア産冷凍ダンプリング (鶏肉入り) のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、イタリア産牡蠣の大腸菌、ポーランド産の生ソーセージ (サーモン) のリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体 1/5 陽性)、ベルギー産牛肉カルパッチョのリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産家禽肉ソーセージのサルモネラ、フランス産コールドカット (冷製の調理済み肉) 製品のリステリア (*L. monocytogenes*)、エストニア産ミックスシードのサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ドイツ産 (アルゼンチン・セルビア・トルコ産原材料使用) 冷凍有機ミックスベリーのノロウイルス (GII)、米国産 (オーストリア経由) 粉末アーモンドのサルモネラ (*S. Oranienburg*)、イタリア産ケバブ肉 (鶏・七面鳥) サンドイッチ (卵不使用マヨネーズ、トマト、タマネギ入り) のリステリア (*L. monocytogenes*)、米国産 (イタリア経由) 刻みピスタチオのサルモネラ属菌、フランス産ヤギ生乳チーズのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産ケバブ肉 (鶏・七面鳥) のサルモネラ (*S. Enteritidis*、*S. Agona*、*S. Infantis* など)、ポーランド産鶏肉製品のサルモネラ属菌、フランス産 dairy-based snack balls (スナックボール (乳製品)) のリステリア (*L. monocytogenes*) など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

鶏砂嚢のサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体 2/5 陽性)、リトアニア産鶏もも肉 (マリネ液漬け) のサルモネラ (*S. Agona* (25g 検体 3/5 陽性)、*S. Infantis* (25g 検体 2/5 陽性))、ルーマニア産冷蔵家禽肉のサルモネラ属菌、ベルギー産スモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産七面鳥肉のサルモネラ (*S. Chester*)、ボツワナ産冷凍牛肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、チェコ産牛タルタルステーキの志賀毒素産生性大腸菌、スロベニア産家禽肉製品のサルモネラ属菌、リトアニア産鶏ドラムスティック肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体 1/5 陽性)、リトアニア産鶏もも肉 (骨・皮なし) のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体 1/5 陽性)、フィンランド産解凍鶏もも肉のサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体 2/5 陽性)、ポーランド産鶏ドラムスティック肉のサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体 4/5 陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

ブラジル産 (オランダ経由) 冷凍家禽肉のサルモネラ属菌 (C 群など) とリステリア (*L. monocytogenes*)、ルーマニア産鶏もも肉のサルモネラ属菌、ルーマニア産冷凍鶏ドラムスティック肉のサルモネラ属菌、ドイツ産調理済みタイ料理のリステリア (*L. monocytogenes*)、ルーマニア産鶏とたいのサルモネラ属菌、ポーランド産スモークベニザケ (sockeye salmon) のアニサキス (*Anisakis simplex*)、インド産イヌ用ペットフードの腸内細菌科菌群 (2,200 CFU/g)、ドイツ産ダマシカ (fallow deer) 肉のサルモネラ (*S. Kottbus*、*S. Paratyphi B*、*S. Typhimurium*)、ベルギー産飼料原料のサルモネラ (*S.*

Typhimurium)、モロッコ産（オランダ経由）生鮮ローズマリーのセレウス菌など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌、モロッコ産フサカサゴ属の魚 (*Scorpaena scrofa*) のアニサキス (幼虫)、インド産 betel leaf (キンマの葉) のサルモネラ、ブラジル産家禽肉製品のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性) など。

● オーストラリア・ニュージーランド食品基準局 (FSANZ: Food Standards Australia New Zealand)

<https://www.foodstandards.gov.au>

オーストラリア・ニュージーランド食品基準局 (FSANZ) による年次報告書 (2024 年 7 月～2025 年 6 月)

Annual Report 2024-25

Published 31 October 2025

[https://www.foodstandards.gov.au/sites/default/files/2025-](https://www.foodstandards.gov.au/sites/default/files/2025-10/FSANZ%20Annual%20Report%202024-25.pdf)

[10/FSANZ%20Annual%20Report%202024-25.pdf](https://www.foodstandards.gov.au/sites/default/files/2025-10/FSANZ%20Annual%20Report%202024-25.pdf) (報告書 PDF)

<https://www.foodstandards.gov.au/publications/annual-report-2024-25>

オーストラリア・ニュージーランド食品基準局 (FSANZ) は年次報告書「Annual Report 2024-25」(対象期間: 2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日) を発表した。内容の一部を以下に紹介する。

FSANZ 長官による年間レビュー

○ 食品安全、サーベイランスおよびエビデンス

FSANZ は、公衆衛生・安全の保護を確実にするため、先進的なサーベイランス、リスク評価およびデータ分析の実施を通して、食品安全基準の策定、食品供給のモニタリング、および食品回収の管理を継続している。

FSANZ は、食品中の化学物質、毒素および微生物ハザードの有無を確認するため様々な調査を実施しており、それらの一部は完了している。この調査の一環である「28th Australian Total Diet Study (ATDS、豪州トータルダイエツトスタディ)」は継続され、全国で約 2,000 の食品由来検体が採取された。これらの検体は、農薬、抗菌剤、金属、カビ毒など 500 種類以上の化学物質について分析された。ATDS に関する補足調査として、ハーブやスパイスに

含まれる金属、およびベーキングパウダー、ケーキや焼き菓子製品に関する調査なども開始されており、その結果は 2026 年中頃に発表される予定である。追加調査ではトランス脂肪酸、エノキダケのリステリア、オーストラリア産食品に含まれるピロリジジナルカロイド、およびリンゴジュースやその他のリンゴ製品に含まれる金属類が注目された。

また、FSANZ は食品中に存在する抗菌剤耐性 (AMR) 菌についても全国サーベイランスを進めており、調査結果は 2025 年後半の発表を予定している。この調査は、食品供給における AMR に関するエビデンス基盤を強化する上で重要な役割を果たすほか、情報にもとづいた意思決定を支援するための確実なデータの提供が期待される。

FSANZ は 2024~2025 年に 87 件の食品回収を実施したが、これは過去 10 年間の年間平均回収件数である 86 件と同水準であった。さらに 2 国間食品安全ネットワーク (BFSN : Bi-National Food Safety Network) で連携し、2024~2025 年の年度内に 1 件のインシデントに対応するとともに、その他 9 件の重要な食品安全関連問題に関する情報共有を行った。これらの問題には冷凍アサイー製品、中国の汚染された食用油、および複数の管轄区域にまたがるアウトブレイクの調査が含まれる。FSANZ は各州の食品・保健当局と協力して南オーストラリア州で発生した ToBRFV (tomato brown rugose fruit virus) のアウトブレイクに対応するとともに、消費者向け食品供給の安全性についてメディアを通じて声明を発表した。食品回収およびインシデント対応は、いずれもオーストラリアとニュージーランドの消費者に安全な食品供給を確保するための重要な手段である。

FSANZ は「消費者の行動・意識に関するトラッキング調査 (CIT : Consumer Insights Tracker)」の第 2 回年次報告書を発表した。この調査はオーストラリアおよびニュージーランドの消費者 2,000 人を選抜して、両国の統合食品規制システムに対する意見を聞くことを目的としている。この調査結果は、食品規制、食品ラベルの使用と理解、および食品安全に関する認識と行動への消費者の信頼や自信に関する貴重な知見を提供する。

パート 2 : 年次業績報告書

○ 主要な活動 1 : 入手可能な最良の科学的エビデンスにもとづいた食品基準の策定

● 主な提言に関する報告書

- ・ 卵に関する食品安全および一次生産における要件

FSANZ は 2025 年後半に予定されている理事会での審議に先立ち、提言 P1060「卵に関する食品安全および一次生産における要件 (Egg Food Safety and Primary Production Requirements)」(以下 Web ページ参照) の作成を完了した。

<https://www.foodstandards.gov.au/food-standards-code/proposals/Proposal-P1060-20-20Egg-Food-Safety-26-Primary-Production-Requirements>

この提言は、特にサルモネラによる食品由来疾患リスクを低減させるため、卵および卵製品の一次生産段階と加工段階における食品安全管理を強化する方法を検討したものである。リスク評価の過程、およびそれに続く既存の規制・非規制的なアプローチ (*Salmonella*

Enteritidis の検出およびアウトブレイクに対するバイオセキュリティ面での対応など）を検討する中で特定された課題に対処するため、FSANZ は公衆衛生・安全の保護を強化するための対策を特定した。これらの対策には *S. Enteritidis* の環境検査、トレーサビリティの改善、げっ歯類・昆虫・野鳥の排除、卵の安全な洗浄、飼育エリアの管理のほか、卵および卵製品の保管・輸送中の温度管理などが含まれる。

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室